



外国文献紹介

原発性副甲状腺機能亢進症患者の極力侵襲性を抑えた副甲状腺摘出術の実施時における Tc-99m 標識 MIBI シンチグラムと I-123 標識甲状腺シンチグラムのサブトラクション SPECT 画像を加えた副甲状腺シンチグラムの意義について

Asseeva P et al : Value of $^{123}\text{I}/^{99\text{m}}\text{Tc}$ -sestamibi parathyroid scintigraphy with subtraction SPECT/CT in primary hyperparathyroidism for directing minimally invasive parathyroidectomy. Am J Surg 217 : 108-113, 2019

筆者らは、原発性副甲状腺機能亢進症で手術を実施した 90 例について、術前に頸部超音波検査や SPECT 画像を含む副甲状腺シンチグラムを行い、病変が一腺だけなのか、多腺病変なのか、あるいは病変が存在しないのかを診断し、手術結果と比較した。手術の結果、病変が一腺だけのものは 72 例、多腺性のものは 18 例であった。超音波検査単独での感度と特異度は 91.7% および 38.9% であり、サブトラクションを行ったシンチグラムおよび SPECT 画像の所見も加味した場合には、84.72% および 77.78% となり、超音波検査単独の場合と比べて特異度が上昇した。そして、超音波検査の所見にサブトラクション SPECT 画像の所見を加えることにより、極力侵襲性を抑えた副甲状腺摘出手術に向けて高い特異度を得ることが可能になると思われると述べている。

瀬戸一彦